

議会が「もっと」近くなる

市民の声

写真を通して学んだこと



5年前、友人から写真展の案内をもらいました。当初、さほど興味があったわけではないので、正直なところ、ほんのお義理のつもりで出かけたのがそもそもの始まりでした。

です。同じ風景でも、季節や時間帯によって、また、撮る人の視点によって、その趣は大きく異なることも知りました。そして、写真には構図や技術を超えた撮影者の心が写ることを強く感じました。

東京へ「全国盲人写真展」を見に行ったときの感動は、忘れることができません。写真は目で撮るのではなく、“心で撮る”ものだということを深く深く心に刻みました。

何回か足を運ぶうちに、父から受け継いだDNAが目を覚ましたとも言うべきでしょうか、次第に写真の魅力に引かれ、新聞の写真展に関する記事にも注目するようになり、いただいた案内はもちろんのこと、あちこちの写真展に出かけるようになりました。

23人の燕市の議員さんもそれぞれの得意分野をお持ちだと思います。工夫を凝らした議会報は魅力的で、編集に携わる方々の心意気が伝わってきます。市民の声に耳を傾けながら、それぞれの持ち味を生かし、住みよい燕市のために活躍されま

ります。公募展、グループ展、個展とそれぞれ特徴がありますが、たくさんの作品を見て感じたのは、“きれいな写真”と“感動する写真”があるということ

松田節子さん(燕市花園町)

編集後記

昨年11月13日に開催された臨時会で議会構成が変わり、このたび議会報等特別委員会委員長に就任いたしました。これまで以上に市民の皆様に読み親しんでいただける議会報づくりに全力で取り組んでいく決意です。

議会報の表紙が刷新されて今回で4回目の発行となります。委員6名とともによりよい紙面づくりに挑戦しながら頑張っています。今後ともよろしくお祈りします。

渡邊雄三

今号の表紙



総務省の情報通信統計データベースによると、平成23年の1年間にインターネットを利用したことがある人は推計で9,610万人と、前年に比べ148万人の増加。人口普及率は79.1%となりました。

スマートフォンなどの携帯端末の普及と利用も進んでおり、議会と住民を結びより多くの機会をつくりたいと、「燕市議会ノートブック」電子書籍版の配信をスタートいたしました。

皆様と議会をつなぐため、今後もさまざまな取り組みを行ってまいります。

※インターネット利用率を年齢階級別の推移で見ると、13～49歳までの年齢階級では9割を超えているとのことです。若い方にも「電子書籍版議会報」をご覧ください。

【議会報等特別委員会】

委員長：渡邊雄三 副委員長：齋藤紀美江
委員：小林由明 樋浦恵美 タナカ・キン 長井由喜雄 齋藤信行

